

3年間(2007-2009)の地質の調査研修を振り返って(7)

研修の様子4:夜の作業風景

<宿泊先の旅館にて>



a. 見本として、講師によって昔の野帳に表現されたルートマップを参照する。左手前は、講師の柳沢氏。2009年10月。



b. 昼に野帳上に鉛筆で作成したルートマップは、夜に墨入れをして鉛筆の線を消し、そのあと、岩相の違いを色鉛筆で表して見やすくする。左奥は講師の斎藤氏。2008年10月。



c. 作成した互いのルートマップを比較しあう。野帳は、首にかけて持ち運べるように、穴をあけてビニールひもを通してある。左手前は、講師の柳沢氏。2009年10月。



d. ルートマップを墨入れをした後、5,000分の1の小縮尺の地図上のルート(谷筋)に書き写し、次に、谷筋の岩相の境や鍵層の位置を、山筋の等高線上にどのように表現するかを学ぶ。右手前は、講師の滝沢氏。2007年10月。



e. 昼に沢沿いで作成したルートマップのデータを基に、岩相境界や鍵層の位置を小縮尺(5,000分の1)の地形図上に延長して色を塗るなど、地質図作成の基本作業を実習する。2007年10月。



f. 任意の断面線での断面図の描き方の実習。断面線沿いの地形断面を方眼紙に描いた後、断面線と地層の走向方向との交わる角度から、岩相境界や鍵層の傾斜角の見かけの角度をもとめ、断面図上に描く。2007年10月。